

【問題分析の視角】

■ 論文とは

論文（レポート・エッセイ含む）は、「命題を持った文章」でなければならない。

■ 命題とは？

- ① 結論を持った文章
- ② 何らかの方法（科学的・客観的・或いはその他の方法）で、その結論の真偽を判定できる（明示的な文章）
- ③ 反証可能性のある文章

結論を持った文章の例

- 日本は議院内閣制を採用している
- × 日本の首相の権能には何が含まれるか

命題の明示性

- ・ 真偽・事実関係がはっきりする文章でなければならない（×曖昧な表現）
- 政治学の教科書は専門用語が多く用いられている
- × 政治学の教科書は難解である

・ 論理的に複数の解釈が可能な文章もNG

政治学の教科書は難解である

「文章が難解なのか？」「(文章は平易だが) 内容が難解なのか？」

反証可能性のある文章

論理的に肯定も否定もできない文章はNG

例) 戦争は人間の憎しみから起こる

例) 世界が減ぶとも正義を為すべきである

これらの命題が証明されない限りは、

* 「戦争は人間の憎しみからは起こらない」という議論が成り立ち難い

* 「世界が減びるくらいなら正義をなすべきではない」という議論が成り立ち難い

言い換えると、証明できない文章は、反証も出来ない

■ 「論文」の条件

- ① 問い—どういった問題設定を行ない、何をどこまで明らかにするのか。
- ② 問いに対する主要な結論

- ③ その結論の重要性（貢献度）
- ④ その結論の唯一性(Uniqueness)

■ 論理性

筋道だった説明（第三者がその是非を検証できる）

- ①理由付け（Reasoning）
- ②比較(Comparison)
- ③首尾一貫性(Consistency)

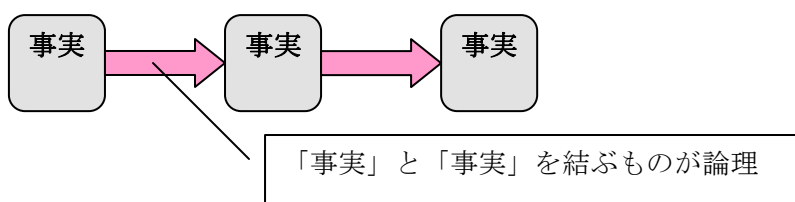
論理性とは、あくまでも筋道だった結論が客観的な方法で示されるという推論の方法を示すもの

■ 「論理性」と混同されやすい諸要素

結論が事実に基づいている（単に事実を記述した文章）

面白さや問題意識において説得力がある（必ずしも論理的とは限らない）

- 事実関係の曖昧なところを論理的推論によって接続する
- 可能な限り（リサーチ等を通じて）仮説・推論の量を減らしていく



論理というのはすべて推論・推理（reasoning）であるので、如何なる場合においても完全な論理というものは存在しない（比較的妥当な論理というものは存在する）。

如何なる論理も反論可能。逆に反証不可能な論理は、論理として不完全な場合が多い

例)：神は死んだ

例)：死んだ人間は天国に行く

例)：天気がいいと機嫌が良くなる

つまり論理的思考が馴染む命題（事実に基づく推論）と馴染まない命題（宗教的な命題、きわめて個人的な選好に関する命題）が存在する

- 論理的に妥当な命題
 - 論理的に妥当でない命題
 - 論理的に妥当である（または妥当でない）可能性のある命題
- Aという条件では妥当するが、それ以外の条件では妥当しない

結論 (Claim) : 主張の内容

小前提 (Date) : 結論を導く具体的な事実

大前提 (Warrant) : 小前提と大前提を結ぶ一般的な推論

C : ソクラテスはやがて死ぬ

D : ソクラテスは人間である

W : 人間はやがて死ぬ

C : 明日は雨が降る

D : 天気予報でそう言っていた

W : 天気予報には信憑性がある

C : 果物は体に良い

D : 果物は野菜である

W : すべての野菜は体に良い

C : Aさんが飲んでいるのはお酒ではない

D : Aさんは未成年である

W : 未成年者はお酒を飲まない

必要条件と十分条件

C : 世界政府を作れば戦争がなくなる

D : 戦争は国家間の争いから起こる

W : 世界政府が国家間の争いを調停すれば戦争は起こらない

C : 民主主義国家は戦争を起こさない

D : 戦争は独裁者の野心から生じる

W : 民主主義国に独裁者は居ない

C : 経費削減は株価を上昇させる

D : 経費削減は利益率を向上させる

W : 利益率の向上は株価を上昇させる

■ 定義について

- ▶ 一般的な定義・・・辞書的な定義

- ▶ 当該文献における定義
- ▶ その事例（文脈）における定義

○その定義の意味

○その定義が成り立つ条件

○検証のポイント

- ▶ Purpose（目的） 誰のために
- ▶ Position（立場） 誰にとっての
- ▶ Perspective（構え） どの視点で
- ▶ Period（時間） どの時点で

■ 当該論文によってどのような問題がどの程度解決されているのか？

問題Aに対する解決策Bは、

必要なものか？またそれで十分なものか？

- ▶ 必要でもなく十分でもない
- ▶ 必要だが十分でない
- ▶ 必要ではなく十分
- ▶ 必要かつ十分

⇒検証のポイント

当該論文による解決策は必要かつ十分なものであるか？

■ 問題分析の視角

③【原因】 Causes



①【問題】 Problems



②【弊害】 Harms

④【方針】 Direction

⑤【具体的解決策】 Mandates



実行可能性（Feasibility）

実効可能性（Workability）

⑥【利益】 Advantages

（⑦想定される弊害） Disadvantages

（⑧比較） Comparison